

あざみの花

著者 古川豊子

広島への原爆投下から72年間、
胸の奥深く閉じ込めてきた母の最期…



「原爆さえなかったら！」 被爆者とその家族の叫び

1945年8月6日、アメリカが広島に原爆を投下した。当時10歳だった著者の母は、広島市内に暮らしていた伯父夫婦を探しに駆けつけ、二次放射能を浴びた。

それから4年後、母は白血病に冒され乳癌を併発する。あざみの花のような優しさと強さをたたえた母が癌に冒され変わり果てていくさまと、いいあわせない辛さをかみしめながら寄り添う父、両親の苦悩と葛藤をまのあたりにしながらただ見守ることしかできなかった子どもたち…。それぞれの感情が克明に描かれている。

原爆投下で一瞬にして命を奪われた人、放射能によって体を蝕まれ苦しみ続けてきた人、すべての犠牲者を代表し、二度と戦争をしてはならないことを強く訴えている。



注文書	貴店名	注文数	長周新聞社
	ご担当	ご注文日 月 日	冊
			ISBN 978-4-9909603-0-8
			あざみの花 古川豊子
			B5判変型 40頁 定価(本体 1600円+税)

お問い合わせ先 長周新聞社

〒750-0008 山口県下関市田中町10-2

TEL 083-222-9377
FAX 083-222-9399